多摩六都科学館　事業評価報告書

平成26年度～平成28年度（3カ年）の中期計画における
平成26年度の実績報告ならびに事業目標の達成度等に関する評価報告

本報告書の構成

多摩六都科学館における事業評価の基本的な考え方		1頁
多摩六都科学館事業評価票		
	1. 指定管理者による自己評価ならびに外部評価　ー5つの事業目標ごとの評価ー　①～⑤	2～6頁
	2. 多摩六都科学館組合による自己評価ならびに外部評価	7～8頁
	3. 総評　使命ならびに活動理念の評価	9頁
	参考資料	10頁

平成27年7月

多摩六都科学館組合

指定管理者：株式会社 乃村工藝社

多摩六都科学館における事業評価の基本的な考え方

1. 多摩六都科学館における事業評価の意義

多摩六都科学館は、平成25年度に策定した第2次基本計画（平成26年度～平成35年度）に基づき、事業評価を実施する。事業評価を導入することによって、基本計画に掲げた使命ならびに事業目標の達成度や事業の取組姿勢・進捗状況が検証可能な中長期の目標管理システムの構築をめざす。

評価結果を事業の修正、翌年度の予算編成や事業計画に反映させ、計画（Plan）－実行（Do）－評価検証（Check）－改善（Action）のPDCAマネジメントサイクルを機能させ、継続的な業務改善・サービスの向上が図られるよう努める。また、評価結果を公表することにより、構成市ならびに圏域市民に対して、公の施設としての社会的説明責任を果たし、公的事業の透明性を図るものとする。

2. 事業評価の進め方

平成26年度は試行として進め、業績指標・検証方法などの検討を行い、本格導入は平成27年度からとする。

多摩六都科学館の事業評価は、中期で事業方針を定め、その進捗状況や目標の達成度を経年変化で検証する。第1期は平成26年度～平成28年度の3カ年。

各年度の事業評価は、多摩六都科学館組合と指定管理者が自己評価（1次評価）を行い、さらに事業評価委員会（構成員は科学教育や博物館運営に関わる有識者と圏域の市民）による外部評価（2次評価）を行い、その結果を事業評価報告書としてまとめ、事業報告書とともに構成五市に報告し、情報公開という流れで実施する（詳細スケジュールは別紙参照）。

	第2次基本計画の期間（H26～H35）									
年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
中期	3カ年			7カ年 （次期指定管理期間に応じて、中期の期間を設定）						

3. 事業評価の概要

評価実施者	評価の種別	概要（評価対象ならびに進め方など）
指定管理者	自己評価 1次評価	第2次基本計画に定めた「使命」ならびに「活動理念」「5つの事業目標」に沿って、指定管理者が定めた「事業計画の基本方針」（中期3カ年の事業目標）の進捗状況・妥当性・達成度・有効性について、年度毎に自己評価を行う。 指定管理期間終了年度には中期における取組について総評を行う。 各年度の事業結果の詳細は、「事業報告書」をとりまとめ、報告・公表する。
多摩六都科学館組合	自己評価 1次評価	第2次基本計画に定めた「使命」ならびに「活動理念」「5つの事業目標」が達成できるよう、計画された「重点戦略」および「中期で重点的に取り組む戦略」のうち、組合が推進すべき取組について、進捗状況・妥当性・達成度・有効性について、年度毎に評価を行う。 指定管理期間終了年度には中期における取組について総評を行う。
事業評価委員会	外部評価 2次評価	第2次基本計画に定めた「使命」ならびに「活動理念」「5つの事業目標」に向かって科学館の管理運営を推進できたかを、年度毎に外部評価を行う。 指定管理期間終了年度には中期における取組について総評を行う。

4. 業績指標の検証方法

多摩六都科学館では、下記方法で業績の検証を行う。数字だけでは実態を把握できない取組姿勢や進捗状況なども定性的に自己評価し、中長期的な目標の達成度を検証できるように試みていく計画である。

類型	検証時期	検証方法	ベンチマークス	調査実施者
A	毎年	結果データを定量的に検証	経年変化を検証	指定管理者
B	毎年	取組内容を定性的に検証	経年変化を検証	指定管理者
C	毎年	利用者を対象にアンケートを実施し、定量的なデータを測定し、検証	経年変化を検証	指定管理者
D	毎年	市民モニター等を対象にインタビュー調査を実施し、定性的に検証	経年変化を検証	組合（指定管理者協力）
E	中期の区切りで	圏域市民を対象にアンケートを実施し、定量的なデータを測定し、検証	平成25年度のデータと比較し、変化を検証	組合（指定管理者協力）
F	中期の区切りで	事業評価委員会・市民モニターが取組内容や成果を定性的に検証	平成22年度、25年度の状況と比較し、変化を検証	組合（指定管理者協力）

5. 段階評価の基準

評価	評価内容・基準
A++	優良：目標を超える成果を挙げている。内容が特に優れている。
A+	良好：目標に対し良好な成果を挙げている。内容に優れた点が見られる。
A	適正：計画に則して目標を達成している。内容が適正である。
B	改善：目標が達成できていない点がある。もしくは内容の改善が必要である。
C	見直し：目標がほとんど達成できていない。抜本的な改善が必要である。

1. 事業目標ならびに事業方針

第2次基本計画			指定管理者・事業計画
事業領域	事業目標-1	取組方針	H26年度～H28年度（中期）事業の基本方針
事業計画 **科学館事業** **（中核事業）**	**科学を楽しむ　世界と向き合う** 多摩六都科学館は、これまでの科学館事業を継承しつつ、さらに活動や場を拡げ、ひとりでも多くの皆さんが科学の楽しさをともに体験でき、科学リテラシーを高められる科学館をめざします。	多摩六都科学館の中核事業です。「科学を楽しみながら学べる科学館」「子どもたちの科学する心を育む科学館」像はこれまで通り大切にしつつ、幅広い年齢層も利用できる施設へと徐々に領域を拡げます。多くの方々が科学の楽しさに触れ、新たな価値を発見できる科学館像の実現をめざします。	**科学の楽しさを実感できる学びの場づくり** 中核事業の活動のテーマでもある「ＤＯ！サイエンス」とは、「実感を伴った理解を図る学習活動」の提供であり、観察・実験・工作といった体験的な活動を重視することです。 多摩六都科学館の新10年計画（第2次基本計画）の使命として掲げられた『多様な「学びの場」の創出』と、科学館事業目標である圏域市民の「科学リテラシーを高める」を達成させるためには、科学館活動のすべてを「実感の場と機会を提供する」ことに収斂することによって実現できると考えられます。この実感を提供できるよう、標本・装置の充実、専門性とエンジョイメントの両立、参加体験でのコミュニケーションのさらなる充実をめざします。

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

↓凡例：色の濃度は重要度（濃い方が重要度が高い）

「指定管理者事業報告書」で該当する事業領域（事業概要一覧は11頁の参考資料2参照）↓

赤字：重点的な業績指標と重複する指標

↓別表参照

3. 評価結果・指標の実績結果

	重点戦略		中期で重点的に取り組む戦略	事業概要		業績指標	定量	検証方法	中期目標（目標値）	H24 実測値	H25 実測値	H26 実測値	H27 実測値	H28 実測値
●	専門性を基本とした上で、科学を通して得られる楽しみや感動、インスピレーションを重視した事業を行います。	●	すべての面において、コミュニケーションを重視した事業運営を行います。また、企画展の成果を生かし、常設展示の更新・充実を図り、ひとりでも多くの方々が科学を楽しめる場づくりに努めます。	Ⅱ-1.科学館事業全体	●	「コミュニケーション重視の体験が充実」と答えた人の割合	＊	C						
					●	「科学の楽しさを実感した」と答えた人の割合	＊	C						
					●	科学への興味喚起度（利用者調査・定量的）	＊	C						
					●	科学への興味喚起度（市民モニターが検証・定性的）		D						
					●	幅広い年齢層からの支持	＊	C						
					●	常設展示　満足度（館内アンケート）	＊	C	80%以上が満足	―	71.1%	78.1%		
					●	企画展示　満足度（①館内アンケート、②会場アンケート）	＊	C	80%以上が満足	―	①71.1%	①72.0% ②85.0%		
					●	①プラネタリウム・②大型映像　満足度（館内アンケート）	＊	C	80%以上が満足	―	①92.8% ②78.7%	①92.5% ②83.3%		
					●	参加体験型学習プログラム　満足度（各プログラムで実施しているアンケート）	＊	C	80%以上が満足	―	―	99.0%		
●	子どもを中核としつつ、より幅広い年齢層（幼児、若者層、高齢者層）が共に楽しめるコンテンツの開発を推進します.	●	将来のリピーター獲得のため、最優良顧客であるファミリー層の新規来館者の増員を図ります。		●	リピーターの比率の維持	＊	C	50%～60%を維持	―	55.8%	54.1%		
					●	ファミリー層の新規利用者の増員をめざした取組		B	検討／実施			実施		
		●	併せて、中学生以上を対象にした大人向けプログラムの開発・実践に努めます。		●	年齢別プログラムや事業の取組数	＊	A						
					■	「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価		D						
●	展示や教育普及活動がさらに充実するよう、科学館事業の基盤となる収集・保存・調査研究活動の強化を図ります。	●	多摩地域の地層・化石の研究は継続させます。また、これまで蓄積してきた収集・展示資料の図録を編集・発行します。	Ⅱ-1-1	●	調査研究活動		B	検討／実施			実施		
					●	標本資料屋装置の充実（研究成果の市民への還元）		B	検討／実施			実施		

＊註1：科学館事業の業績指標は、上記以外に平成29年度以降取組予定のもの、中期的な指標もある。科学館事業全体の指標は10頁を参照。ここでは、平成26～28年度の取組対象の指標のみ掲示。

＊セルがピンク色は目標達成あるいは実施したもの

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果･成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総括的な意見等）
H26	実質的コミュニケーション実現のため、下記事業を行った。 寄贈標本整理による常設展示の充実、利用者層別・ラボ別プログラムの品揃えの充実、常設化を意図した内製企画展の実施、単なる生解説の領域を超える観客と会話するプラネタリウム番組の提供（2か月毎に更新）等。 これらの事業によって「ＤＯ！サイエンス」を実現する事業展開のための基盤の整備を推進できた。	各常設展示室のコア部分の改良を優先順位を決めて取り組み、各部屋ごとの科学体系を充実させる。 寄贈標本の体系化を果たし、常設展示をさらに充実させる。 平成26年度に作成したベータ版の展示ストーリーブックを充実させ、関係者の展示内容把握を高め、展示ツアー等によるコミュニケーションの深度を高める。	A	A+	プラネタリウム・参加体験型学習プログラムの満足度は、9割以上と非常に高い上に、科学館事業全体を鑑みると大変よくやっていると思う。また、リピーターの比率が高い割合を維持していることから事業の充実度を窺い知れる。 常設展示の満足度は目標値の80%に達していないが、26年度から継続的に常設展示のコンテンツの充実を図っており、その取組姿勢は評価したい。 自己評価はAと控えめであるが、当委員会ではA+の評価とする。
H27					
H28					

1. 事業目標ならびに事業方針

第2次基本計画			指定管理者・事業計画
事業領域	事業目標-2	取組方針	H26年度～H28年度（中期）事業の基本方針
事業計画 **地域拠点事業**	**多摩六都の交流拠点** 多摩六都科学館は、地域の人々が世代を超えて交流し、自己実現の場として活用できるよう、地域の交流拠点（たまり場・ハブ）となります。	開館当初から期待されていた役割でありながら、「子どもの施設」のイメージが強く、生涯学習施設としての機能や魅力は周知されていません。 そこで、施設の機能構成から見直し、圏域市民が気軽に利用できる施設へと転換を図ります。	**幅広い年齢層が科学を仲立ちとして交流・連携する場の創出** 多摩六都科学館は、生涯学習施設としての機能強化が求められています。これまで同様、ボランティア活動やキャリア教育の支援など、圏域市民が様々な立場で交流できる場づくりに努めます。また。今後は友の会会員とも「ともにつくりあげる」関係づくりを進めます。 子どもだけでなく、幅広い年齢層が気軽に利用できる機会や学びの場を市民とともにつくりあげていきます。

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

3. 評価結果・指標の実績結果

↓凡例：色の濃度は重要度（濃い方が重要度が高い）　赤字：重点的な業績指標と重複する指標　↓別表参照

重点戦略		中期で重点的に取り組む戦略		事業概要	業績指標		定量	検証方法	中期目標（目標値）	H24 実測値	H25 実測値	H26 実測値	H27 実測値	H28 実測値
●	地域の人々が立場を変えつつも人生を通して、科学館ボランティアや友の会等の自主的な活動によって成長し、社会貢献し、自己実現できるよう支援活動を行います。	●	さらに充実したボランティア活動を行い、多摩六都科学館をともにつくりあげていきます。	Ⅱ-2-1-（1）	●	ボランティアの科学館事業への支援延人数	*	A	3,000人以上 10人以上/1日 （開館日数300日）			3,950人		
					●	ボランティア主催事業回数	*	A	12回以上 （1回／月）以上	10回	12回	14回		
					●	ボランティアによるプログラム開発		B	検討／実施			実施		
		●	友の会会員に市民モニターとして事業に参画いただける機会を作ります。また、賛助組織としての機能拡張も検討します。	Ⅱ-3-1-（2）	●	友の会会員数	*	A	1,500人以上	1,056人	1,501人	1,643人		
					●	友の会市民モニター取組		B	検討／実施			検討		
●	市民や利用者の総合的な学習活動を支援するため、市民の視点に立ち、利用者が主役となって活用できる場をともにつくりあげます。	●	利用者・市民・スタッフ・専門家・企業・地域関係者のために、科学を仲立ちとした交流の場と機会を提供していきます。	主に Ⅱ-2-1-（2）	●	市民活動支援事業		B	検討／実施			実施		
				中期的な指標	■	生涯学習施設としての評価	*	E						
					■	地域の交流拠点としての評価	*	E						
					■	「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価	*	E						

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総括的な意見等）
H26	多摩六都のボランティア活動は、100人を超える規模、参加しやすい曜日班システム、参加頻度の高さが証明するように科学館が地域と密接につながっているという点で大きく評価できる。ボランティア規約も地域の方が自律的に作成するなど地域の活動拠点になっており、ボランティア＝地域の方が主人公という先端事例になりうる。ボランティアの活動場所も、常設展示の体の部屋、しくみ・自然・地球の各ラボ、科学学習室、さらにアウトリーチまで活動の幅を広げている。ジュニアボランティア制度も軌道に乗り、圏域市民のボランティアスピリットを高める面でも成果を上げつつある。	今後は、ボランティアによる自主的なプログラム開発や自立型プログラム運営の実現に向け、「自分の科学館」として活動できる場となるよう、サポートを行う方針である。 また、友の会は、今後、年間パスポートサービスだけでなく、科学館の成果（科学リテラシーや地域リテラシーの向上）を検証する際の市民モニターの核として参画できるよう、取り組みを試みていく計画である。 その他、誰もが利用しやすい科学館をめざし、障害者配慮型のプログラム開発についても、さらに充実を図る予定である。	A+	A+	ボランティア参加人数の規模、ボランティアによる自律的な運営体制、圏域へのアウトリーチ活動や自主事業の開催、ジュニアボランティアの育成など、大変めざましい成果が見られ、大いに評価したい。また、ボランティアの9割以上が構成五市の住民であることから、多摩六都科学館が地域拠点として機能していると言えよう。 今後は、ジュニアボランティアや友の会会員の成長について追跡調査を実施し、長期的な成果を提示していく努力も必要と思われる。
H27					
H28					

1. 事業目標ならびに事業方針

第2次基本計画			指定管理者・事業計画
事業領域	事業目標-3	取組方針	H26年度～H28年度（中期）事業の基本方針
事業計画 **地域拠点事業**	**多摩六都の魅力発信** 多摩六都科学館は、活動や場を介して、地域の様々な資源をつなぎ、新たな資源を市民の皆さんとともに作り上げ、社会に還元していく創造拠点となります。	新たに定めた使命を実現するために、新規に設けた事業分野です。地域連携や地域資源の掘り起こしは徐々に始めていますが、今後は多摩六都科学館の目玉となる事業となります。 圏域市民の皆さんの協力を得ながら体制を整備し、実現をめざします。	**地域資源や市民をつなぐ場／コミュニケーション・プラットフォームへと進化** 展示や調査研究活動などを行う際、地域資源の価値発掘と魅力発信も視野に入れて活動を行い、圏域市民の「地域リテラシー」の醸成を図ります。また、「地域参画力」のある人材育成も行いながら、多摩六都圏域を支える諸団体・市民との連携に力を入れ、自律的な市民の地域づくりを支援します。 将来、科学教育のためのコンテンツやプログラムをオープン・データ化できるよう、開発を進めます。

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

↓凡例：色の濃度は重要度（濃い方が重要度が高い）　赤字：重点的な業績指標と重複する指標　↓別表参照

3. 評価結果・指標の実績結果

	重点戦略		中期で重点的に取り組む戦略	事業概要		業績指標	定量	検証方法	中期目標（目標値）	H24 実測値	H25 実測値	H26 実測値	H27 実測値	H28 実測値
●	地域の自然・文化・歴史・産業など様々な資源を、地域の皆さんと協力しながら、科学的な観点から価値づけ、その価値を広く発信し、さらに新たな地域資源をつくり上げていきます。	●	今後も、協働体制で地域資源をテーマにした様々な企画展や教育普及活動を開催し、地域内外に発信し続けます。	主に Ⅱ-2-2 1科学館事業全体 2地域拠点事業全体	●	地域資源をテーマとした企画展の開催		B	検討／実施			実施		
					●	常設展示つながりスポットの充実		B	検討／実施			実施		
					●	地域資源をテーマとした学習プログラムの開発		B	検討／実施			実施		
					●	地域資源をテーマとしたイベントの実施		B	検討／実施			実施		
					●	「多摩地域の価値を見つけた」と答えた人の割合(定量)	＊	B						
					●	多摩地域の価値を見出せる事業の実施（定性）		D						
●	こうした活動を通して、地域の人々の「地域参画力」を高めていきます。	●	「地域づくり人」講座など、圏域市民の「地域参画力」を高めていける研修の場を設けます。		●	圏域市民を対象とした研修会の実施		B	検討／実施			実施		
●	科学教育のためのコンテンツやプロダクト、研修プログラムなどを、協力者とともに開発し普及させていくセンター的な役割を展開します。	●	今後もプログラムの開発を継続的に行い、将来的にはオープンデータとして公開をめざします。		●	プログラム公開に向けた取組		B	検討／実施			検討		
					●	科学教育のためのコンテンツやプロダクト、研修プログラムなどの開発		B	検討／実施			検討		
				中期的な指標	■	「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価（定量）	＊	E						
					■	「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価（定性）		F						
					■	「地域資源を生かした運営」に対する評価	＊	E						

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果･成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総括的な意見等）
H26	大学側・研究所側の社会貢献というニーズを反映し、連携・協働事業は市民も加わる形で活発に実施できた（東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構、高エネルギー加速器研究機構、東京大学宇宙線研究所、国立天文台、東大農場・演習林等との事業）。 「多摩・島しょ子ども体験塾」を通して、企業連携を深めることができた。シチズン㈱、グローブライド㈱はプログラム提供レベルに達している。 市民連携では、自然保護の市民団体と活動目標・地域自然の価値を共有でき、活動を科学館中核事業として位置づけることができた。エコミュージアムのサテライト活動と科学館を中核とした活動の地域連携が始まった。	今後は、機械振興協会・技術研究所（東久留米市）と協力し、地域の福祉系との協働をサポートしていきたい。また、多摩地域の情報通信研究機構、国立極地研究所と連携を進め、新たなプログラムや企画展の開発を推進していく意向である。 市民連携では、自然保護の市民団体の高齢化が進み、次世代の活動メンバーの組織化をサポートすることが重要課題となっている。自然系の連携先は進んでいるが、デジタル系の市民連携が展示や運営面での課題である。 下野谷遺跡等、科学館と無縁に見える地域資源も、地球の部屋の武蔵野台地の視点と関連付け、地域の文化として展示化を検討する。	A	A+	初年度でありながら、精力的に地域連携事業を実施しており、その取組姿勢は大いに評価できる。今後、地域産業や産物を科学的観点から価値づけ、発信していく媒体として科学館が機能し、地域にとってかけがえのない存在に成長することを期待している。 また、スタッフひとりひとりが「公の施設」の運営に携わる者として自覚を持ち、成長してほしい。
H27					
H28					

1. 事業目標ならびに事業方針

第2次基本計画			指定管理者・事業計画
事業領域	事業目標	取組方針	H26年度～H28年度（中期）事業の基本方針
経営計画 **マーケティング**	**愛着の持てるロクトへ** 多摩六都科学館は、圏域市民の認知度・利用度を高め、利用者の満足度向上をめざします。さらに、市民から愛着を持って「自分の科学館／地域の科学館」と認められる存在となります。	圏域市民の認知度・利用度を伸ばすことが今後の課題です。 広報活動、ニーズ調査をパラレルに行いながら、認知度・利用度・満足度のアップをめざします。 長期的には、圏域市民の科学館に対する価値観を高めることをめざします。	**「利用者中心」に一元化されたコミュニケーションマネジメントによるマーケティングの展開** コミュニケーションを重視した「ＤＯ！サイエンス」をさらに充実するため、最有力顧客であるファミリー層と、開発目標のシニア層をターゲットとした市場調査を行い、サービスの最適化を図ります。また、事業評価を的確にフィードバックし、サービス内容のさらなる向上につなげます。これらのサービスをターゲットマッチングを意識してタイムリーな広報・ＰＲ活動を行います。 今後も、アテンドや広報だけでなく、すべての科学館活動を「利用者中心」に一元化したコミュニケーションマネジメントを行います。

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

↓凡例：色の濃度は重要度（濃い方が重要度が高い）　赤字：重点的な業績指標と重複する指標　↓別表参照

	重点戦略		中期で重点的に取り組む戦略	事業概要		業績指標	定量	検証方法	中期目標（目標値）	H24 実測値	H25 実測値	H26 実測値	H27 実測値	H28 実測値
●	利用状況やニーズを分析し、認知度・利用度・満足度を高める取組みを中長期の観点から推進します。利用者を第一に考え、常に質の高いサービスを提供します。市民や利用者の声を長期的に反映させやすいしくみを検討します。	●	今後も精度の高いアンケート調査を実施し、市民モニターの導入も図ります。	Ⅱ-3-2	●	利用者の満足度（全体・総合的な満足度）	*	C	80%以上を維持			88.9%		
		★	運営協議会の見直しを行います。		●	利用者の声を反映した改善を可能とするしくみ検討に関する取組		B	検討／実施			実施		
●	多摩六都科学館が圏域市民のために運営されている施設であることの認知度をアップさせる方策を行います。広報については、エリア戦略とプロモーション戦略を検討し、効果分析しつつ、有効かつ効率的な方法で展開します。	●	多摩六都科学館の事業内容の価値や魅力の見える化を図り、迅速に更新も行い、情報を発信し続けます。	Ⅱ-3全体	●	非利用者への利用促進策の実施・情報発信		B	検討／実施			実施		
		★	3カ年目に、圏域市民の科学館の認知度・利用度・満足度の調査を行い、平成25年度データと比較し、広報効果の検証を行います。	中期的な指標	●	圏域市民の科学館の認知度・利用度・満足度	*	E						
●	利用度を高めるためにアクセスの改善を図ります。圏域内のバスの運行やコミュニティサイクル等の導入を検討します。	●	夏休み期間など繁忙期には、5市の主要駅からシャトルバスを運行させ、利用者サービスに努めます。	Ⅱ-3全体	●	アクセス改善・交通の便改善に向けた取組		B	検討／実施			実施		
				中期的な指標	■	「自分の科学館／地域の科学館として価値ある存在」としての評価★	*	E						
					■	「市民から愛される科学館」としての評価	*	E						

3. 評価結果・指標の実績結果

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果･成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総括的な意見等）
H26	毎週マーケティング会議を開催し、方向性を検討し、下記のような成果を上げている。 タブレット利用の対面型出口アンケートや圏域5市の市民祭りでの対面型未利用者調査で確実な顧客ニーズを把握、体験プログラムでは書き込み型アンケートで反応を把握。調査結果もとに科学館ニュースの戦略的配布と編集、ホームページへの反映でターゲットマッチングなマーケティング活動ができた。 また、紙媒体・市報・マスコミ・有料広告・ＨＰのトータル的ＰＲ活動により、20万を超える利用者の維持に貢献できた。	今後は、マーケティング担当以外のスタッフの顧客創造意識を高め、下記のようなサービスの充実を図りたい。 具体的な内容がわかりやすく伝わる広報資料の作成、文化資源の解説計画やシニア層への解説計画の充実、未利用者のさらなる開発、ホームページでの展示物検索、科学館ニュースの増ページ（予算を見ながら適切に実施）等。	A	A	マーケティング活動も週1回の会議を設け、推進し始めたことによって、戦略的な取組を実施し、功を奏していると言える。 今後は、マーケティング活動を通して得たデータを生かし、シニア層、中学生・高校生・大学生に向けた事業戦略を検討し、新規来館者層の獲得にも期待したい。
H27					
H28					

1. 事業目標ならびに事業方針

第2次基本計画			指定管理者・事業計画
事業領域	事業目標	取組方針	H26年度～H28年度（中期）事業の基本方針
経営計画 **財政計画・体制整備**	**持続可能なしくみづくりを** 多摩六都科学館は、ソフト・ハード両面の改善が推進できる健全な財政計画や協働体制を立案実行し、地域貢献できる施設として持続可能な発展をめざします。	第1次基本計画時に策定した財政計画によって、プラネタリウムや常設展示のリニューアルが無事に実現できました。第2次基本計画でも、持続可能な成長・発展ができるよう、ハードだけでなくソフトの質的充実も図れるよう、財源の確保・体制整備を推進します。	**顧客満足度を高め、地域づくりの基盤となる体制整備** 企画展の成果物を常設展示に活用できるよう、的確な予算計画を練り上げ、実施します。また、多摩・島しょ広域連携活動助成金などの公的助成金により、新たなプログラムの開発に取り組みます。 顧客満足度の高いコミュニケーションサービスが達成できるよう、面談方式による人事評価を導入し、スタッフの育成を図り、体制整備を進めます。また、地域づくりのための体制やネットワークの構築も活動しつつ、進めていきます。

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

↓凡例：色の濃度は重要度（濃い方が重要度が高い）　赤字：重点的な業績指標と重複する指標　↓別表参照

3. 評価結果・指標の実績結果

	重点戦略		中期で重点的に取り組む戦略	事業計画		業績指標	定量	検証方法	中期目標（目標値）	H24 実測値	H25 実測値	H26 実測値	H27 実測値	H28 実測値
●	負担金・利用料金以外の外部資金の導入・活用策（寄附金、助成金、補助金の確保の他、ネーミングライツ、賛助組織など）を検討します。	●	賛助組織について検討を行い、助成金獲得に努めます。	Ⅲ収支	●	助成金獲得に向けた取組		B	検討／実施			検討		
					●	外部資金の導入策・活用策の検討・実施		B	検討／実施			検討		
●	地域連携・協働体制（ともにつくりあげていくしくみ）の整備も早急に検討を行います。	●	まずは人的なネットワークの充実を図り、将来的な体制整備の検討を始めます。	Ⅰ-3-2等 事業全般	●	人的ネットワーク充実に向けた取組		B	検討／実施			実施		
					●	将来的な体制整備の検討		B	検討／実施			検討		
●	常に魅力的な施設であるために、展示やプラネタリウム等の定期的なリニューアルが実現できるよう財政計画を検討します。	●	企画展などの成果を常設展示に反映させていく等、恒常的な活動の中で魅力づくりを行える事業サイクルを構築します。	主に Ⅱ-1-2	●	効率的・効果的な事業サイクルへの取組		B	検討／実施			実施		
●	駐車場が不足しているなど施設に関する課題を解決するための取組みを行います。交通機関の協力や投資の必要もありますが、長期的な観点から改善策を検討します。	●	新駐車場の緑地と雑木林の環境に即した体験プログラムなどもボランティアとともに開発します。	Ⅱ-1-1 Ⅱ-2全体	●	プログラム開発に向けた市民参画型の取組		B	検討／実施			実施		
●	継続的なコンテンツ開発、優秀な人材の確保など、ソフト整備も長期的観点に立ち、財源確保を図ります。	●	継続的にプログラムの開発を行います。また、文化庁や宇宙航空研究開発機構などと連携し、コンテンツ開発と人材育成を図ります。	Ⅱ-1全体 Ⅱ-2全体	●	プログラム開発の継続性・有効性		B	検討／実施			実施		
					●	他機関との連携によるコンテンツ開発・人材育成の実施		B	検討／実施			実施		
				中期的な指標	■	持続可能な財政計画・体制整備の推進（定性的評価）		F	検討／実施					

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総括的な意見等）
H26	科学館事業（中核事業）と地域拠点事業の二本柱を、スタッフが意識し具体的に行動化できるよう目標カードを導入した。グループ目標・チーム目標・個人目標を期首に定め、各リーダーのもとＰＤＣＡサイクルによる目標管理を実施した。 事業予算を精査した年間計画を各グループに提示し、担当者の責任のもと、予算の裏付けをした上で事業の計画を進めることを重視し、事業推進管理を図った。	スタッフの中には、自主企画の意味や予算の執行の本質的な理解が不得意なものも存在するため、各リーダーの指導の下、本来の意味を理解した上で実質的な活動ができるよう改善を図りたい。目標を達成することが利用者中心を実現することにつながることを実感させたい。	A	A	目標カードの導入は、個人個人のミッションを明確にし、運営メンバー全員の事業ベクトルを合わせるためには有効なツールであり、平成26年度の事業結果を見ると、確実に成果が出ていると思われる。 また、ボランティアをはじめ、地域企業・研究機関から多くの人的支援を得ていることは、体制整備の面からも大きな力を得ている。 この点も大いに評価したい。
H27					
H28					

1. 事業目標ならびに事業方針

1～3頁参照

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

↓凡例：●は指定管理者、★は組合、色の濃度は重要度（濃い方が重要度が高い）　赤字：重点的な業績指標と重複する指標

3. 評価結果・指標の実績結果

↓別表参照

事業領域		重点戦略		中期で重点的に取り組む戦略		業績指標	定量	検証方法	中期目標（目	H26 実測値	H27 実測値	H28 実測値
科学館事業（中核事業）	●	専門性を基本とした上で、科学を通して得られる楽しみや感動、インスピレーションを重視した事業を行います。	●	すべての面において、コミュニケーションを重視した事業運営を行います。また、企画展の成果を生かし、常設展示の更新・充実を図り、ひとりでも多くの方々が科学を楽しめる場づくりに努めます。	●	科学への興味喚起度（市民モニターが検証・定性的）		D	検討／実施			
	●	館内だけでなく、地域全体にも活動フィールドを拡げ、多くの方々が科学の楽しさを体験できるよう、アウトリーチ活動を推進します。	★	次期指定期間でのアウトリーチ活動の需要ならびに重要性を検証し、業務基準に定める方向性と業務量を検討します。	●	業務基準書改訂に向けた検証		B	検討／実施	検討		
	●	圏域内にサテライト（科学教育の場）が拡がっていくことも将来展望とします。	★	市民の自発的な活動に注目しつつ、実現可能策を検討します。	●	圏域内のサテライトのあり方や可能性に関する検討		B	検討／実施			
	●	多様なテーマを科学的なアプローチで探求し、科学に興味のない方でも来てみたいと思わせる事業展開を図ります。敷居を低くし、科学への興味を引き出す場をつくりだします。	★	圏域5市への働きかけや協働体制強化に努めます。	●	行政への働きかけや体制整備に向けての取組		B	検討／実施	実施		
					■	「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価	＊	E				
					■	「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価		F				
					■	圏域市民の科学リテラシーの向上（科学への興味喚起度）	＊	E				
					■	圏域市民の科学リテラシーの向上（科学への興味喚起度）		F				
					■	科学の担い手の育成		F				
地域拠点事業	●	地域の人々が立場を変えつつも人生を通して、科学館ボランティアや友の会等の自主的な活動によって成長し、社会貢献し、自己実現できるよう支援活動を行います。	★	市民モニターのしくみを事業評価に組み込めるか試行をはじめ、導入の検討を行います。	●	事業評価における市民モニターの導入実施		B	検討／実施	実施		
	●	科学館をもっと気軽に利用してもらえるよう、無料ゾーン・有料ゾーンの設定を変更し、無料ゾーンの充実を図ります。	★	無料ゾーンの充実を図るため、長期的な観点で施設の改修計画を検討します。	●	施設構成および改修計画の検討		B	検討／実施			
	●	圏域市民のための施設として認知されるよう、施設の貸出しや場の提供に向けた条例の改正や規程の整備を行います。	★	施設の貸出などが可能な施設とするために、条例や規程の見直しを始めます。	●	貸出の需要、ルールなどの検討		B	検討／実施			
					■	生涯学習施設としての評価	＊	E				
					■	地域の交流拠点としての評価	＊	E				
					■	「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価	＊	E				
	●	地域の自然・文化・歴史・産業など様々な資源を、地域の皆さんと協力しながら、科学的な観点から価値づけ、その価値を広く発信し、さらに新たな地域資源をつくり上げていきます。	●	今後も、協働体制で地域資源をテーマにした様々な企画展や教育普及活動を開催し、地域内外に発信し続けます。	●	多摩地域の価値を見出せる事業の実施（定性）		D				
	●	地域の学術機関や地域産業との連携を深め、協働で多摩六都圏域の特徴を基にした「地域づくり」事業の推進を図ります。	★	次期指定管理期間における「地域づくり」事業を業務基準書の中に位置づけ、準備を開始します。	●	業務基準書の改訂		B	検討／実施	検討		
	●	多摩六都圏域だけでなく、多摩地区全体にも視野を広げ、気づかずに見過ごしている資源（地域づくりを実践できる創造的な人材やソフトも含む）の掘り起こしを行い、共有できるしくみを整備します。	★	圏域の文化施設・研究機関等が連携・協働事業に取り組みやすくするために、ネットワークや協議会などのしくみづくりを推進します。	●	協働体制の整備		B	検討／実施			
			★	地域資源のデータベース化の検討も開始します。	●	データベース整備に関する検討		B	検討／実施			
	●	長期的・間接的な効果として、科学の担い手の育成、新たな産業創出も展望として掲げ、事業の展開を図ります。	★	長期的な観点で、体制整備を図っていきます。	●	長期的な観点を持って取組		B	検討／実施			
					■	「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価（定量）	＊	E				
					■	「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価（定性）		F				
					■	「地域資源を生かした運営」に対する評価	＊	E				

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総括的な意見等）
H26	中期的な成果指標について評価手法の検討を行い、市民モニターの試行を行った結果、モニター制度や業績評価の手法などで評価システムを改善できた。	中核事業や地域へ展開していく活動の社会的価値を、利用者やスタッフの「変化」と「成長」を通してモニタリングし、内部のマネジメントに反映させたい。	A	A	組合の場合、長期的な観点からの取組が多いために成果が見えづらいが、早急に取り組むべき課題であった市民モニターの導入実施に着手したことを評価したい。
H27					
H28					

1. 事業目標ならびに事業方針

4～5頁参照

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

↓凡例：●は指定管理者、★は組合、色の濃度は重要度（濃い方が重要度が高い）　赤字：重点的な業績指標と重複する指標　↓別表参照

3. 評価結果・指標の実績結果

事業領域		重点戦略		中期で重点的に取り組む戦略		業績指標	定量	検証方法	中期目標（B	H26 実測値	H27 実測値	H28 実測値
マーケティング	●	利用状況やニーズを分析し、認知度・利用度・満足度を高める取組みを中長期の観点から推進します。利用者を第一に考え、常に質の高いサービスを提供します。市民や利用者の声を長期的に反映させやすいしくみを検討します。	★	運営協議会の見直しを行います。	●	利用者の声を反映した改善を可能とするしくみ検討に関する取組		B	検討／実施	検討		
	●	多摩六都科学館が圏域市民のために運営されている施設であることの認知度をアップさせる方策を行います。広報については、エリア戦略とプロモーション戦略を検討し、効果分析しつつ、有効かつ効率的な方法で展開します。	★	3カ年目に、圏域市民の科学館の認知度・利用度・満足度の調査を行い、平成25年度データと比較し、広報効果の検証を行います。	●	圏域市民の科学館の認知度・利用度・満足度	＊	E				
	●	利用度を高めるためにアクセスの改善を図ります。圏域内のバスの運行やコミュニティサイクル等の導入を検討します。	★	上記に協力しつつ、その他のアクセス改善策も積極的に検討を行います。	●	「交通の便を改善し利用しやすい科学館」としての評価	＊	E				
	●	障害のある方も、外国の方も、誰もが利用しやすいよう、ユニバーサルデザインに基づいたバリアフリー・多言語対応等を推進します。	★	今度増えるであろう外国人の対応については、現況を見つつ、改善の検討を行います。	●	外国人対応などのユニバーサル化に向けた検討		B	検討／実施	検討		
	●	館名のわかりづらさは、愛称やキャッチコピー、VI（ヴィジュアル･アイデンティティー）等を導入し、コミュニケーション計画の改善を図ります。	★	次期指定管理までに愛称やVIなどに関する将来展望を検討します。	●	将来展望の検討		B	検討／実施	検討		
					■	「自分の科学館／地域の科学館として価値ある存在」としての評価★	＊	E				
					■	「市民から愛される科学館」としての評価	＊	E				
財政計画体制整備	●	負担金・利用料金以外の外部資金の導入・活用策（寄附金、助成金、補助金の確保の他、ネーミングライツ、賛助組織など）を検討します。	★	ネーミングライツの検討、圏域5市が共同で実施する助成事業を継続して実施できるよう尽力します。	●	外部資金の導入策・活用策の検討・実施		B	検討／実施	検討		
	●	常に魅力的な施設であるために、展示やプラネタリウム等の定期的なリニューアルが実現できるよう財政計画を検討します	★	施設の長寿命化やリニューアルを見据えた長期的な財政計画を検討します。	●	財政計画の検証		B	検討／実施			
					●	施設の長寿命化計画の検証・実施		B	検討／実施	検討		
	●	駐車場が不足しているなど施設に関する課題を解決するための取組みを行います。交通機関の協力や投資の必要もありますが、長期的な観点から改善策を検討します。	★	新たな駐車場の整備を行います。緑環境にも配慮した新しい形の駐車場の整備を市民や指定管理者とともに行います。	●	緑環境に配慮した駐車場の整備		B	検討／実施	実施		
	●	継続的なコンテンツ開発、優秀な人材の確保など、ソフト整備も長期的観点に立ち、財源確保を図ります。	★	働きやすい労働環境を維持するためにも、指定管理者が十分に財源を確保できるよう、監理・助言・評価・支援を行います。	●	適切な監理の遂行		B	検討／実施	実施		
					■	持続可能な財政計画・体制整備の推進（定性的評価）		F	検討／実施			

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組結果･成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総括的な意見等）
H26	駐車場整備やアクセスサービス等で、より利用しやすい施設となるための方策に取組んだ。 構成市とのさまざまな連携・協働の橋渡しを進めている。	圏域市民の調査を実施して、広報やマーケティングのアウトカムを中期的に検証することが今後の課題。 引き続き、構成市の幅広い要望に応えられるよう努める方針である。	B	B	平成26年度中に完成予定であった駐車場の整備や施設の長寿命化計画の策定が翌年に持ち越された点、運営協議会の見直しなども検討段階止まりだったことから、B評価とする。
H27					
H28					

1. 長期的な事業目標ならびに事業方針

第2次基本計画		指定管理者・事業計画
使命	**活動理念**	**H26年度～H28年度（中期）事業の基本方針**
多摩六都科学館は、地域の皆さんをはじめとする様々な方々とともに、誰もが科学を楽しみ、自分たちの世界をもっと知りたいと思える多様な「学びの場」をつくりあげていきます。 そして、多摩六都科学館は、活動の幅を拡げ、皆さんをつなぎ、「地域づくり」に貢献することをめざします。	科学でつながる ともにつくりあげる 多摩六都科学館	多摩六都科学館第2次基本計画の使命の『多様な学びの場』の創出、『地域づくり』の支援をめざすため、活動のテーマを引き続き「ＤＯ！サイエンス」とします。利用者自らが積極的かつ主体的に関わり、スタッフとともに「科学する」を実感できる場と機会の提供をめざします。 今後は、「市民の科学館／Science Center of the people」を到達点とし、事業展開をめざします。

2. 重点的な業績指標（KPI）　3. 評価結果・実績値（定量評価）

評価軸		重点的な業績指標（Key Performance Indicators, KPI）		検証方法	中期目標（目標値）	H24 実測値	H25 実測値	H26 実測値	H27 実測値	H28 実測値
利用状況・経営状況	●	利用者数	＊	A	リニューアル後の最高値18万人をキープ	181,715人	208,999人	206,076人		
	●	利用料金収入（事業収支）	＊	A	90,000千円	110,329千円	123,626千円	112,320千円		
	●	利用料金比率（利用料金収入／全収入）	＊	A	25%以上	27.9%	30.3%	27.9%		
	●	外部委託費比率（外部委託費合計／全支出）	＊	A	20%以下	17.2%	16.7%	15.1%		
	●	利用者当たり管理コスト（全支出／利用者数）	＊	A	2,000円以下	2,074円	1,859円	1,892円		
	●	利用者当たり組合負担コスト（指定管理料／利用者数）	＊	A	1,500円以下	1,545円	1,266円	1,321円		
直接的な事業効果	●	利用者・参加者の満足度（総合的な満足度）	＊	C	80%以上が満足	91.9%	89.7%	88.9%		
	●	「科学の楽しさを実感した」と答えた人の割合	＊	B						
	●	科学への興味喚起度（利用者調査・定量）	＊	C	80%以上が満足 （平成27年度から）					
	●	科学への興味喚起度（市民モニターが検証・定性）		D						
	●	幅広い年齢層からの支持	＊	C	中高生・20代の青年層と、50代以上の熟年層の総利用者に対する割合をそれぞれ10%程度を維持する。	－	－	青年層 10.1% 熟年層 8.6%		
	●	リピーターの比率の維持	＊	C	50%～60%を維持	－	55.4%	54.1%		
	●	ファミリー層の新規利用者の増員をめざした取組		B	検討／実施			実施		
	●	年齢別プログラムや事業の取組数	＊	A				小学校低学年以下向け 294日 40,511人		
	●	「多摩地域の価値を見つけた」と答えた人の割合	＊	B						
	●	多摩地域の価値を見出せる事業の実施		D						
	●	「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価（定量）	＊	E						
	●	「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価（定性）		D						
長期的な成果	●	「多摩六都科学館の3～5年間の活動は、自分にとって、地域にとって価値あるものだった」と答えた人の割合（H25年度未調査、★類似指標はデータあり）	＊	E						
	●	「多摩六都科学館の活動が圏域市民にとって、地域にとって価値あるものであった」という観点からの評価		F						
	●	「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価(定量)	＊	E						
	●	「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価(定性)		F						
	●	圏域市民の科学リテラシーの向上（科学への興味喚起度）	＊	E						
	●	圏域市民の科学リテラシーの向上（科学への興味喚起度）		F						
	●	科学の担い手の育成		F						

4. 評価結果（定性評価）

	自己評価			外部評価	
	今年度の取組 結果･成果	課題・ 今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総括的な意見等）
H26	中核事業の体験型コミュニケーションは、コンテンツの充実が図られ、アンケートでも順調に進化していることが実感できる結果となっている。 地域連携の拡張に努めた結果、市民や企業との協働は、おおむね良好に進んでおり、今後も期待できる成果を上げたと言える。	未就学や小学校低学年層への体験型プログラムの顧客満足度はほぼ達成できたが、高学年、中高大・シニアへのステップアップ等、多様な学びの場の構築が今後の課題である。体験活動時の双方向の対話を重視したい。 地域連携は、事業の質をさらに深める。 駐車場整備事業を完了させ、施設の計画的な補修等を組合と密に連携し実施していく。	A＋	A＋	駐車場のマイナス要因がありながら、20万人を超える利用者数で得ることができた事業内容を高く評価したい。 また、通年利用者数が減る2月～3月に学割などの方策をとり、利用者数を底上げする成果をあげている点も評価に値する。平成25年度策定の基本計画で、新たな柱として掲げられた地域連携事業についても、運営メンバーが一丸となって取り組み、初年度でありながらめざましい成果をあげた点を大いに評価したい。
H27					
H28					

本報告書2頁　科学館事業（中核事業）の業績指標の全体像

「指定管理者事業報告書」で該当する事業領域（事業概要一覧は11頁の参考資料2参照）

↓凡例：色の濃度は重要度（濃い方が重要度が高い）　↓　赤字：重点的な業績指標と重複する指標　↓別表参照

	重点戦略		中期で重点的に取り組む戦略	事業概要		業績指標	定量	検証方法	中期目標（目標値）	H24 実測値	H25 実測値	H26 実測値	H27 実測値	H28 実測値
●	専門性を基本とした上で、科学を通して得られる楽しみや感動、インスピレーションを重視した事業を行います。	●	すべての面において、コミュニケーションを重視した事業運営を行います。また、企画展の成果を生かし、常設展示の更新・充実を図り、ひとりでも多くの方々が科学を楽しめる場づくりに努めます。	Ⅱ-1.科学館事業全体	●	「コミュニケーション重視の体験が充実」と答えた人の割合	＊	C						
					●	「科学の楽しさを実感した」と答えた人の割合	＊	C						
					●	科学への興味喚起度（利用者調査・定量的）	＊	C						
					●	科学への興味喚起度（市民モニターが検証・定性的）		D						
					●	幅広い年齢層からの支持	＊	C						
					●	常設展示　満足度（館内アンケート）	＊	C	80%以上が満足	―	71.1%	78.1%		
					●	企画展示　満足度（①館内アンケート、②会場アンケート）	＊	C	80%以上が満足	―	①71.1%	①72.0% ②85.0%		
					●	①プラネタリウム・②大型映像　満足度（館内アンケート）	＊	C	80%以上が満足	―	①92.8% ②78.7%	①92.5% ②83.3%		
					●	参加体験型学習プログラム　満足度（各プログラムで実施しているアンケート）	＊	C	80%以上が満足	―	―	99.0%		
●	子どもを中核としつつ、より幅広い年齢層（幼児、若者層、高齢者層）が共に楽しめるコンテンツの開発を推進します.	●	将来のリピーター獲得のため、最優良顧客であるファミリー層の新規来館者の増員を図ります。		●	リピーターの比率の維持	＊	C	50%～60%を維持	―	55.8%	54.1%		
					●	ファミリー層の新規利用者の増員をめざした取組		B	検討／実施			実施		
		●	併せて、中学生以上を対象にした大人向けプログラムの開発・実践に努めます。		●	年齢別プログラムや事業の取組数	＊	A						
					■	「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価		D						
●	展示や教育普及活動がさらに充実するよう、科学館事業の基盤となる収集・保存・調査研究活動の強化を図ります。	●	多摩地域の地層・化石の研究は継続させます。また、これまで蓄積してきた収集・展示資料の図録を編集・発行します。	Ⅱ-1-1	●	調査研究活動		B	検討／実施			実施		
					●	標本資料屋装置の充実（研究成果の市民への還元）		B	検討／実施			実施		
●	館内だけでなく、地域全体にも活動フィールドを拡げ、多くの方々が科学の楽しさを体験できるよう、アウトリーチ活動を推進します。	●	3カ年で徐々に実施していきますが、毎年、圏域五市の小学校各1校ずつ、圏域五市の中学校には1校は必ずアウトリーチ活動を行います。	Ⅱ-1-5-4 Ⅱ-2全体		圏域五市小学校へのアウトリーチ活動	＊	A	各市1校ずつ5校実施			10校		
						圏域五市中学校へのアウトリーチ活動	＊	A	5市で1校は実施			3校		
						その他の機関などへのアウトリーチ活動		B	検討／実施			実施		
						ボランティアによるアウトリーチ活動		B	検討／実施			実施		
		★	次期指定期間でのアウトリーチ活動の需要ならびに重要性を検証し、業務基準に定める方向性と業務量を検討します。			業務基準書改訂に向けた検証		B	検討／実施			検討		
●	圏域内にサテライト（科学教育の場）が拡がっていくことも将来展望とします。	★	市民の自発的な活動に注目しつつ、実現可能策を検討します。		●	圏域内のサテライトのあり方や可能性に関する検討		B	検討／実施			検討		
●	多様なテーマを科学的なアプローチで探求し、科学に興味のない方でも来てみたいと思わせる事業展開を図ります。敷居を低くし、科学への興味を引き出す場をつくりだします。	●	周年イベントなどで集客し、多摩六都科学館のファンを増やします。		●	ファンを獲得できる周年イベントの実施		B	検討／実施			実施		
		★	圏域5市への働きかけや協働体制強化に努めます。		●	行政への働きかけや体制整備に向けての取組		B	検討／実施			検討		
●	ひとりで展示を見るだけではなく、その場に参加した人たちで、ともにつくりあげていくプログラムへと転換を図ります。	●	学習プログラムや展示室でのアクティビティをワークショップ型（参加体験型）とし、見るだけで終わらない科学館体験を提供します。	Ⅱ-1全体	●	参加体験型の学習活動の拡充		B	検討／実施			実施		
				中期的な指標（主は組合・指定管理者協力）	■	「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価	＊	E						
					■	圏域市民の科学リテラシーの向上（科学への興味喚起度）	＊	E						
					■	圏域市民の科学リテラシーの向上（科学への興味喚起度）		F						
					■	科学の担い手の育成		F						

本報告書2～6頁および10頁の「2. 中期の重点戦略ならびに業績指標」一覧内の「事業概要」に記載されている番号は、「指定管理者事業報告書」内で、その指標に該当する事業項目を指す。詳細は、「指定管理者事業報告書」や巻末の参加状況・利用状況等の参考資料を参照。

平成26年度・指定管理者事業報告書・目次			該当頁
Ⅰ	概要		
	1	指定管理者	1
	2	施設概要	2
	3	施設の利用状況	5
Ⅱ	指定管理業務事業報告		
	1	科学館事業	7
		1-1　調査研究・資料収集活動	7
		1-2　展示	10
		1-3　天文映像	16
		1-4　学習	19
		1-5　学校連携・支援	24
		1-6　人材育成・研修事業	27
	2	地域拠点事業	31
		2-1　地域の交流拠点活動	31
		2-2　地域資源創造・魅力発信活動	35
	3	マーケティング	36
		3-1　顧客開発	36
		3-2　市場調査	38
		3-3　広報・PR活動	39
	4	運営管理	43
		4-1　チケット発券・利用案内	43
		4-2　安全管理業務	43
		4-3　設備管理業務	44
Ⅲ	収支報告		48
	資料		51
		各事業の参加状況・利用状況等	51
		アンケート集計結果	59

多摩六都科学館組合事業評価委員会条例

平成16年３月３日
条　例　第　２　号

(設置)
第１条　多摩六都科学館の事業評価を行うため、多摩六都科学館組合事業評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
(所掌事務)
第２条　委員会は、管理者の諮問に応じ、次の事項について調査し、検討し、及び答申する。
（１）主要な事業成果の検証について
（２）その他管理者が必要と認める事項
(組織)
第３条　委員会は、学識経験を有する者のうちから、管理者が委嘱する委員５人以内で組織する。
(委員の任期)
第４条　委員の任期は、２年以内とする。ただし､再任を妨げない。
２　補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
(委員長及び副委員長)
第５条　委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。
２　委員長は、委員会の会務を総理する。
３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。
(招集等)
第６条　委員会は、委員長が招集する。
２　委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
３　委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
(委員以外の者の出席)
第７条　委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。
(庶務)
第８条　委員会に関する庶務は、多摩六都科学館組合事務局において処理する。
(補則)
第９条　　この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。
附　則
この条例は、平成16年４月１日から施行する。

多摩六都科学館組合事業評価委員会委員名簿（第５期）

多摩六都科学館組合事業評価委員会条例（平成16年条例第２号）第３条の規定に基づき、５人の委員に委嘱している。

役　職	氏　名	所　属
委員長	柴田　徳思	東京大学 名誉教授
副委員長	桧森　隆一	北陸大学 副学長・教授
委員	小谷　泰弘	東久留米市在住市民（科学館ボランティア）
委員	坂本　和弘	多摩動物公園 副園長兼教育普及課長
委員	杉浦　幸子	武蔵野美術大学 芸術文化学科教授